

豊かにかかわり 高め合う 鳩森の子

～シブヤ未来科の実践を通して～

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和5年7月5日（水）5校時

渋谷区立鳩森小学校 3年1組

授業者 堀 真美

1 単元名 鳩森をもっと元気にしたい！

2 単元の目標

自分たちが住んでいる鳩森小学校周辺の地域に興味をもち、探求的な見方・考え方を働かせることにより、地域を活性化させるためにどのようなことができるのかを試行錯誤しながら考え、提案する。友達や地域の方々と協働しながら、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、「鳩森をもっと元気にするにはどうすればよいか」という課題について、敬老会や子育て支援センターの方の願いを基に、様々な立場のニーズに合わせたまちづくりの必要性を理解し、鳩森を元気にする企画を工夫して作る中で、探究的な学習のよさに気付く。
- (2) 自分の生活や自分たちの町をこれまでの生活科とは違う視点で見直すことにより、「敬老会や子育て支援センターを利用する方がもっと外出したくなるような企画」を考えようという問いを見だし、価値ある課題を自分で立てて、手段を選択して情報を集め、各教科等で学習したことを活用しながら整理・分析して、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他の願いや思いを尊重しながら自分たちの住む地域に誇りを持ち、積極的に渋谷のまちづくりに関わろうとする態度を養う。

3 本単元で育成を目指す資質・能力（評価規準）

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力（評価基準）		
	①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力	③学びに向かう力・人間性
地域や学校の特色に応じた課題	【知識】 よりよい町づくりは、そこで暮らす人々の願いを基に実現に向けて多くの人々が携わっていることが分かる。	【課題の設定】 自分たちを取り巻く地域社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。	【主体性・協働性】 自分と身近な実生活・実社会の問題解決に他者と協働して進んで取り組もうとする。
未来の渋谷をよりよいまちにするための取組（地域）	【技能】 様々な立場の方のニーズから課題を見出し、「鳩森をもっと元気にする企画」を作り、発表することができる。	【情報の収集】 多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やI	【自己理解・他者理解】 探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考え等を受け入れ尊重しながら学び合おうとする。

	<p>【探究的な学習のよさ】 様々な立場の人にとって住みやすい地域にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや課題、人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。</p>	<p>CTで蓄積することができる。</p> <p>【整理・分析】 適切な思考ツール等を選んで情報を整理し、情報と情報がどのような関係にあるか、見出すことができる。</p> <p>【まとめ・表現】 他教科等で培った表現力等を活用したり、学習の仕方を振り返り他の学習や生活に生かしたりすることができる。</p>	<p>【将来展望・社会参画】 地域との関わりの中で、地域にとって必要なことと自分にできることを検討し、実践に移そうとする。</p>
--	--	---	---

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、第2学年の生活科の学習で行った町探検において、身近な地域の施設を巡って自分たちの住む地域の特徴を大まかに捉えている。また、今年度から始まった社会科の学習では、渋谷区の土地の使われ方や交通、公共施設などについて学習し、これまで知らなかった渋谷区のよさや特徴について楽しみながら学習している。一方、総合的な学習の時間は今年度から始まったため、学習の進め方やねらいについて共通理解を図りながら進めていく必要がある。これまでの学習を基に、総合的な学習の時間では、他の教科とは異なり「人」に着目して課題を見出し、探求していくことにより自分たちの住む地域の未来を考え、様々な方と関わりながらよりよい地域をつくっていくことができるという実感をもってほしいという願いを込めて、本単元を設定した。

(2) 教材について

これまでの生活経験で慣れ親しんでいる施設や町探検等での既習事項をもとに、鳩森の地域マップを作る。地域マップを作製することを通して、小学校の敷地内にある子育て支援センターや学校と関わりのある敬老会など、身近にあっても着目して来なかった様々な立場の人がいることを可視化し、どのような立場の人にとっても暮らしやすいまちづくりのためにできることは何かという課題を作ることができると考えた。児童が「鳩森をもっと元気にしたい」という思いをもち、自分たちにできることは何かという視点で企画を考え、伝え合うことができるようにしたい。

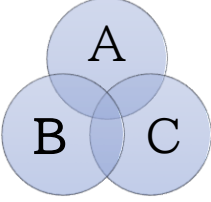
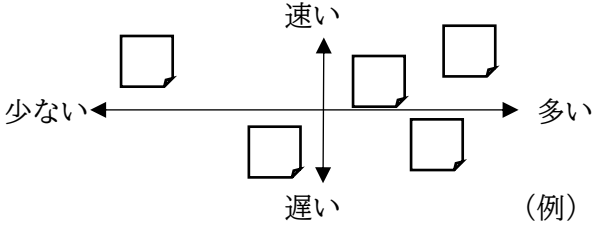
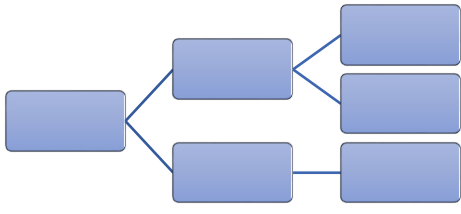
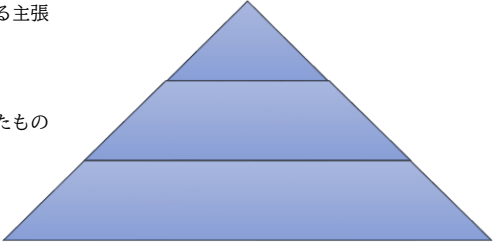
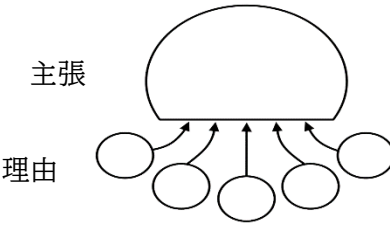
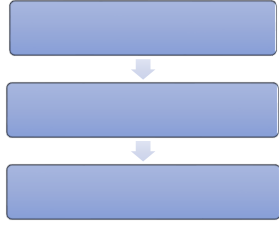
5 主題に迫るための手立て

(1) 探究課題の設定

低学年で行った生活科の町探検で、新宿御苑や町の施設についての学習を行っている。また、児童は自分たちの住む地域に愛着をもって暮らしている。第3学年では、既習事項を生かし、児童の実態に合わせながら、様々な立場の人が暮らしているという点に着目して課題を見出し、探求していくことができるよう、探求課題を設定した。第1次では、学習を地域のマップにまとめることで、身近にあってもよく知らない鳩森の町の様子が多くあることに気付かせ、児童の探究したいという意欲につなげていきたい。

(2) 指導方法の工夫

集めた情報や自分の考えを分類・整理したり、話し合ったことをまとめたりする時に、思考ツールを効果的に活用できるようにする。そのために、思考ツールには様々な種類があること、どのような時にどのような思考ツールが使えるか等を事前に指導しておく。

<p>ベン図【共通点や相違点を明らかにする。】</p> 	<p>座標軸【それぞれの関係を可視化】</p> 
<p>ロジックツリー【構造化】</p> <p>問題点 理由 原因</p> 	<p>ピラミッドチャート【焦点化】</p> <p>中段から言える主張</p> <p>重要な情報・ 下段をまとめたもの</p> <p>収集した情報</p> 
<p>クラゲチャート【主張と根拠】</p> <p>主張</p> <p>理由</p> 	<p>ステップチャート【順序づける】</p> 

(3) 各教科との関連

国語科「もっと知りたい、友だちのこと」では、友達のスピーチを聞き、話の大切な点に着目して質問する学習を行った。第二次で敬老会や子育て支援センターの方にインタビューを行う際に、国語で学習した「話す・聞く」の力を生かしながら情報収集を行う。

社会科「学校のまわりのようす」では、学校の周りにどのような施設があり、鳩森の土地がどのような使われ方をしているかを学んだ。既習事項を生かし、社会科では着目しなかった敬老会や子育て支援センターにも関心を広げられるようにする。

算数科では、既習事項を基に解決する力を、理科では事実から考察する力を育むよう指導している。本単元でも生かせるようにする。

6 指導計画（55時間）

	探究的な学習の過程	指導のポイント
プログラム④	総合オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールの活用方法を理解させる。 生活科の学習を基に、総合的な学習の時間の学び方を指導する。

第一次 鳩森の地域について知る (15)	<p>【課題の設定】 自分たちの住む鳩森の地域はどのようなところかを知り、地域に関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年「まちのすてきたんけん」での学びを生かす。
	<p>【情報の収集】 校外学習の経験でわかったことや、自分たちで調べたことをもとに、情報を集める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科との区別にこだわらず、鳩森の地域にある様々な施設の情報を集める。
	<p>【整理・分析】 集めた情報を整理・分析し、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールや図を活用すると情報を整理しやすいことを確認する。
	<p>【まとめ・表現】 調べた情報を、OneNoteを活用しながらまとめ、地域のマップを作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鳩森の町の中でも、自分たちがよく知らない地域があることや、子育て支援センターについてあまり知らないことに気付かせ、第2次につなげる。
第二次 地域を活性化させるには (15)	<p>【課題の設定】 作成した地域のマップを基に、地域を活性化させる取り組みについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の活性化」とはどのようなイメージかを話し合い、「鳩森をもっと元気にする」というゴールを明確にする。
	<p>【情報の収集】 敬老会や子育て支援センターの方々へのインタビューを行い、情報を収集する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューによって実際の要望を聞くことで、社会と自分たちとのつながりを実感させる。
	<p>【整理・分析】 集めた情報を基に、グループで考えを共有し、自分たちが考える地域活性化の第1案を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを活用し、考えを整理する。
	<p>【まとめ・表現】 敬老会や子育て支援センターの方を呼んで、グループごとにまとめた内容を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1案を受けてゲストティーチャーからの意見を聞き、次の課題につなげられるようにする。
第三次 鳩森をもっと元気にする企画プレゼン・実行 (20)	<p>【課題の設定】 第2次でゲストティーチャーにいただいたアドバイスをもとに、「鳩森をもっと元気にしたい！」プレゼン大会を開催することについて意欲をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテスト形式とし、意欲を高める。
	<p>【情報の収集】 様々なニーズに合わせた企画を作成するために、校外学習等を活用して地域の情報を集める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの目指す地域活性化のためにどのような情報が必要なのかを考えながら、校外学習を行う。
	<p>【整理・分析】 グループごとに、自分たちが考える地域を活性化する企画を、これまでの情報を基にデザインする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協働的に活動を行えるようにする。
	<p>【まとめ・表現】 まとめた企画を、敬老会や子育て支援センターの方に発表したり、実際に企画を実行したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの思いや考えが、社会とつながることを実感できるようにする。

7 本時（10/55）まとめ・表現

（1）ねらい

調べた情報をまとめ、自分たちが住んでいる周辺の地域に関心をもつことができる。

（2）学習指導過程

	○学習活動 ・予想される児童の反応	・留意点 ○評価
導入	<p>○これまでの学習で作った鳩森の地域マップを基に、調べてきた施設やお店を加え、マップを完成させるという本時のめあてを知る。</p> <p>「今日は、鳩森のマップを完成させて、どんな町なのかをみんなで考えましょう。」</p>	<p>・鳩森の地域マップを提示する。</p>
展開	<p>○調べてきたお店や施設を出し合い、地域マップに加えていく。</p> <p>「資料から気付いたことを話し合います。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅が多い。 ・お店がたくさんある。 ・新宿御苑など、緑も多い。 <p>「便利で、たくさんのお店や施設があるのですね。思考ツールを使って、鳩森の町をもう少しわしく分析してみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園はあるけど、もっと遊べる場所があるといい。 ・危ない道路などがあるところは、安全になるといい。 	<p>・鳩森の地域について、気付いたことを付箋にメモして意見を整理しやすくする。</p> <p>・思考ツール「座標軸」を使って、いいところ、改善したいところ等を分析しながらまとめられるようにする。</p> <p>・グループ活動で、意見を交流しながら進められるように促す。よい</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>○適切な思考ツールで情報を整理し、情報と情報がどのような関係にあるか、見出すことができる。</p>
終末	<p>○次時の見通しをもつ。</p> <p>「みなさんは、鳩森をこんな町だと思っているということが見えてきましたね。もっと鳩森を元気にしていくために、子供だけの意見で考えていいでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい子や、お年寄りにも聞きたい。 ・いろいろな人の意見から考えたい。 <p>「今まで、お店や施設に注目して調べてきましたが、鳩森の町に住んでいる人や、施設やお店を利用している人がどう思っているか、知りたいですね。」</p>	<p>・本時の学習を次時につなげ、様々な立場の人から情報を集めるという活動への意欲をもたせる。</p>

